日本大学薬学部校友会

桜薬会会報

20

きぬがさそう　*Trillium japonicum Matsum.*　(Liliaceae)

会長就任挨拶

会長　原田貞亮（1期生）

平成5年7月3日に開催された平成5年度薬学部校友会通常総会におきまして会長を務めさせて頂くことになりました。校友会の運営は校友の皆様のご協力なくしては達成できません。公私ともにお忙しい事とは思いますがご協力のほど宜しくお願い致します。

理工学部薬学科時代、桜薬会として校友会が発足、幾多の苦難の歴代の会長が大変な努力をされ今日の校友会の礎を築かれた事は校友の皆様のご承知の通りです。なかでも、薬学科の学部昇格、大学院の設置等の大変な時期に、12年間の永きにおよび会長としてご苦労をしていただいた高仲前会長に改めて敬意を表させていただきます。今後は当校友会の顧問として校友会の発展にご指導いただく事になりました。この紙面をお借りしてご報告いたします。

さて、校友の皆様には、学内における後輩の指導、病院、企業及び自営業等と大変目覚ましい活躍をされておられる事と思います。こうした校友のために薬学卒後教育講座を通して卒業後も大学側が生涯教育をめざして校友の発展のために多大の努力を払って頂いて居ります。木下前総長のお言葉に［私立大学は校友を大切にし、校友とともに発展していくべきもの］と申されて居りました。誠に当を得たお言葉であり、校友各位の総合力によるなお一層の支援で我が薬学部のますますの発展を願ってやまないものであります。

とかく、卒業をけいきとして大学との縁も薄れがちになります。社会に第一歩を踏み出した当初は大学生活を懐かしく思っても、校友として大学の発展に、後輩の指導にといった余裕は無いことは身をもって体験してまいりました。これで良いと思います。社会に出て何年かはよそめを振らずに努力する姿勢は大変素晴らしい事と思います。

大学の先生方から頂いたご指導、学友との切磋琢磨により得た経験が今日の我々のベースになって居ります。これからの後輩は［グローバルな視野に立って、それぞれのの人生を着実に歩まなければなりません］。校友の皆様がこれまでの人生で得た経験を後輩にフィードバックする事はどんな小さな事であっても社会への貢献につながる尊い活動であると信じます。このためには校友相互の交流の輪を広げ、

目　次

会長就任挨拶　原田貞亮 … 2
薬局業務運営ガイド･ラインとは…?!　深谷仁恵 … 3
ザンビア便りⅣ 無事帰国して　山田節子 … 8
「日本大学薬学卒後教育講座」の現状と今後について　青木正忠 … 11
卒後教育講座第28回以降御案内 …… 12
研究室だより …… 13
支部だより …… 20
事務局だより …… 23
日本大学薬学部募金協力者名簿 …… 26
会費納入報告 …… 27
会員動向 …… 28

一人一人の協力により校友会の発展を支え、合わせて薬学部のますますの発展に寄与して行きたいと願ってやみません。

私自身もなかなか時間を見つけ出せず卒業後の母校への支援が思うにまかせずに参りました。これからの3年間の任期を卒業生の一員として、母校の発展に出来うる限りの努力をさせて頂きたいと願っております。

我々の卒業した母校が発展し、卒業生が各界に於いて飛躍される事は同じ学舎で学んだ校友としては大変大きなプライドです。既にご承知の事と思いますが、校友会では日本大学クレジットカード（VISA, JCB）の加盟を校友の皆様にお願いして居ります。皆様の加盟が校友会の貴重な運営資金の一助になる事はご推察の通りですが、大きな目的は大学のクレジットカードを身につけて頂き、終生日本大学の校友である自負心を持って頂くことにあります。

一方、大学より薬学部の教育研究基金・奨学基金・教育研究施設整備拡充基金の財源として、大学より校友の皆様に寄付のお願いとして協力を要請させて頂いております。

内外の経済環境は大変困難な時代を迎えて居りますが、明日の薬学部の繁栄を目指して我々校友の総合力で支えて行きたいと願って居ります。この目標を達成するため、大変お忙しい事とは思いますが、出身研究室、クラス会そして各支部会を通して、校友各位の団結による一層の支持が不可欠です。

これからの薬学部校友会は会員の皆様のご協力なくしては運営出来ません。

どんな事でもお気付きの点がありましたらお知らせ頂き、皆様の総意の上での運営をさせて頂きたいと念願して居ります。（昭和31年卒業）

薬局業務運営ガイド・ラインとは…?!

埼玉県薬務課長　深　谷　仁　恵

1　はじめに

厚生省が薬局運営ガイド・ラインを本年4月に制定してから数か月が経過しております。

桜薬会オール薬剤師の皆様方は現在、このガイド・ラインをどのように受け止め、またどのような行動を開始されておられるでしょうか?

わが母校日本大学薬学部の中村　健先生が座長を務められた策定検討会の委員として私も参画のチャンスを得ましたので策定の主旨を説明し、一人でも多くの薬剤師の方々が、医療の担い手としての薬剤師の役割を自覚され、一日も速く、地域保健医療に参画するための地域ぐるみの受け入れ体制（処方箋・薬歴管理・副作用情報・その他 etc）を完備し、『本来のあるべき姿の薬局』となり地域保健医療に貢献できる手がかりになりますよう寄稿します。

2　薬局の基本理念こそが開局薬剤師の分岐点

1　薬局の基本理念

(1) 調剤を通じ良質かつ適切な医療の提供
　薬局は、調剤、医薬品の供給等を通じて国民に対し良質かつ適切な医療を行うよう努めなければならない。

(2) 地域保健医療への貢献
　薬局は地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、医療機関等と連携をとり、地域保健医療に貢献しなければならない。

(3) 薬局選択の自由
　薬局は国民が自由に選択できるものでなければならない。

上記の基本理念は薬局・薬剤師の哲学であり、ガイドライン17事項すべての基本です。

3　患者の身近な地域薬剤師会の総力での対応

萩藩毛利家の家訓、一本の矢は折れるが三本の矢は折れないの例えのとおり、一薬局が地域全体の医療機関の医薬品の備蓄や休日・夜間の対応は困難と考えられます。地域の薬局が連携を図ることにより、理念の(1)(2)(3)の対応は一歩前進します。しかし、処方箋の枚数処理のみでは、患者のための分業とはいえません。『医療の担い手』としての薬剤師業務－薬歴管理、服薬指導、医師に対する疑義照会－を行うことは当然であります。

薬事法の薬局は調剤する施設であり、薬剤師の業務を行う場所であります。調剤拒否や特定な医療機関のみの処方箋を受け入れる所でもありません。患者のため、すべての処方箋に対応するには地域薬剤師会の結束は不可欠であります。会員同志の疑心暗鬼をしている時間はありません。また、変革に対応できない薬剤師会は役員の刷新も必要と考えます。『待ったなし』21世紀は目前です。

わが国の薬の使用量は欧米に比べて2～3倍であるため、保険サイドは医薬品抑制策として分業を期待しております。

保険サイドの期待に反し、第二薬局まがい分業やリベート分業などのマンツーマン分業で保険財政の薬剤費を増大させていると、現在でも年々、高齢者の医療費は増大しているなかで、高齢化時代の医療保険制度改革は必ず行われ、また、改革しなければ日本の国の医療保険制度は崩壊してしまいます。その改革の大きな波に医療の公共性（休日・夜間の応需、処方箋の完全応需、医師に対する疑義照会）のない現状分業は呑みこまれてしまいます。その時、慌てても、システムが変えられてしまったあとでは『後の祭り』です。

4　医療法の改正と薬局業務運営ガイドライン

医療法は2回改正され、近日中にも第3次改正が予定されております。その改正の中で『薬局』が『医療機関』として法的に認められるためには従来の物品販売業の薬局・薬剤師から公共性のある調剤を行う薬局・薬剤師への脱皮が急務です。

今回策定された薬局業務運営ガイドラインは個人はもとより地域全体の薬局・薬剤師が助け合い、協力することにより、一日も速く『脱皮』できるために『薬剤師として当然』のことを纏めたものです。薬剤師の将来が脱皮できない爬虫類・昆虫が生きられないと同様にならぬよう社会が求める薬局・薬剤師の責務を定めたものです。

5　分業は地域保険医療貢献の初段階

平成5年には、市町村段階の保健福祉計画が策定されます。患者や地域に身近な市町村の保健医療福祉計画の中で薬局・薬剤師が『医療の担い手』としての役割を果たすためには、分業による『かかりつけ薬局』の充実とその『かかりつけ薬局』をネットワークした在宅医療の薬剤の供給や福祉・介護用品等の情報の提供が求められます。『社会資本』の恩恵で薬剤師は育成されている訳ですから、この役割を果たすことも薬剤師の使命です。

（第7期　薬剤学教室）

東北薬剤師連合大会で
矢野薬務局企画課長が講演

薬剤師は医療人と規定されたが、薬局も医療機関に脱皮してもらうのが薬局業務運営ガイドラインの狙いだと指摘。ＧＬのポイントを説明し、①薬局の医療機関からの独立は薬剤師の原点。そうでなければ薬剤師による医師に対してのチェック等、本来の業務がでない。処方せんが止まるとかで、遠慮して疑義照会をやらないと患者の信頼は得られない、②リベート分業は許可を取り消せと原案には書いてあった。薬局の許可取消に値する。医師と薬剤師がグルになって儲けている、こういう分業ならやらない法がいいというのが必然となる、③卸の関係では卸が薬局を持つのは禁止しろとの意見があった。卸との対話が従来、あまりなかったようだ。外国では備蓄、配送は卸がやっている。備蓄センターなんて聞いたことがない、卸の機能を発揮し、薬局とうまく提携しないと分業は進まない、④開設者の限定は薬剤師が望ましいとしたが、薬剤師教育に欠陥があるからであり、これがきちんとされ、国民から信頼さ

れるようにならないと限定できない、⑤薬剤師の業務が変わってきて情報中心となっている。調剤等はメーカーの仕事となっている。最新情報等を一人でコツコツ収集するのは大変だ。仲間とやるのが効率的である。また生涯研修、また医療ということになると休日・夜間対応は大切で社会的責任だ－として、備蓄対応も含め薬剤師会に結果した上での組織的対応が必要と強調した。

矢野氏は、ガイドラインについていけない薬局もあるかもしれないとしながら「薬剤師としての誇りがあるなら（クリアするよう）頑張ってほしい」と述べた。そして、雑貨屋としての薬局の経営は厳しくなるとし、①縮小される再版に頼るのは不可能、②化粧品は公取委の手が入り厳しくなるなどの例を示しながら、残された有望株は“調剤しかない”と強調した。そして他分野の業種が狙っているが「それは分業に将来性があるからだ。それを薬局がやらないのはおかしい。流通改善のフォローもあるし、ここで頑張らないと（薬局は）終わりだ。遠慮してると（薬局制度は）沈没する」と強調し、“本来の姿で仕事をし、薬剤師の業務を確立し、そして国民の信頼を得るための正念場”であり、頑張るのはこの機会しかないと、薬剤師の奮起を訴えた。

『薬事日報　平成５年９月25日より抜粋』

薬局業務運営ガイドライン

1　薬局の基本理念

(1) 調剤を通じ良質かつ適切な医療の供給
薬局は、調剤、医薬品の供給等を通じて国民に対し良質かつ適切な医療を行うよう努めなければならない。

(2) 地域保健医療への貢献
薬局は地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、医療機関等と連携をとり、地域保健医療に貢献しなければならない。

(3) 薬局選択の自由
薬局は国民が自由に選択できるものでなければならない。

2　医療機関、医薬品製造業者及び卸売業者からの独立

(1) 薬局は医療機関から経済的、機能的、構造的に独立していなければならない。

(2) 薬局は医療機関と処方せんの斡旋について約束を取り交わしてはならない。

(3) 薬局は医療機関に対し処方せんの斡旋の見返りに、方法のいかんを問わず、金銭、物品、便益、労務、供応その他経済上の利益の提供を行ってはならない。

(4) 薬局は医薬品の購入を特定の製造業者、特定の卸売業者又はそれらのグループのみ限定する義務を負ってはならない。

3　薬局の名称、表示

(1) 薬局の名称は、薬局と容易に認識できるよう「薬局」を付した名称とし積極的に表示すること。

(2) 特定の医療機関と同一と誤解されるような名称は避けること。

(3) 「基準薬局」である場合は積極的に表示すること。

4　構造設備

(1) 地域保健医療を担うのにふさわしい施設であること。特に清潔と品位を保つこと。

(2) 薬局等構造設備規則に定められているほか、処方せん応需の実態に応じ、十分な広さの調剤室及び患者の待合に供する場所（いす等を設置）等を確保するよう努めること。

(3) 患者のプライバシーに配慮しながら薬局の業務を行えるよう、構造、設備に工夫をすることが望ましい。

(4) 薬局は利用者の便に資するよう、公道に面していること。

5　開設者

(1) 開設者は、医療の担い手である薬剤師であることが望ましい。

(2) 開設者は薬局の地域保健医療の担い手としての公共的使命を認識し、薬事法、薬剤師法等の関係法令及びガイドラインに従った薬局業務の適正な運営に努めること。
(3) 開設者は薬局の管理者が薬事法第９条に規定する義務及びガイドラインを守るため必要と認めて述べる意見を十分尊重しなければならない。
(4) 開設者はその薬局に勤務する薬剤師等の資質の向上に努めなければならない。
(5) 開設者は、地域薬剤師会が地域の保健医療の向上のため行う処方せん受け入れ体制の整備等の諸活動に積極的に協力すること。
(6) 開設者は薬局の業務運営について最終的な責任を負う。

6 管理者

(1) 薬局の管理者は、ガイドラインに従った薬局業務の適正な運営に努めるとともに、保健衛生上支障を生ずる恐れがないように、その薬局に勤務する薬剤師その他の従事者を監督し、その薬局の構造設備及び医薬品その他の物品を管理し、その他薬局の業務つき、必要な注意をしなければならない。
(2) 薬局管理者は、前項の管理者の義務を遂行するために必要と認めるときは、開設者に改善を要求しなければならない。

7 保険薬局の指定等

薬局は保険薬局の指定及び麻薬小売業者の免許を受けることが望ましい。

8 薬剤師の確保等

(1) 薬局の業務量に応じた必要な薬剤師数を確保すること。
必要薬剤師数は、次のＡ及びＢにより算定した人数のうち多いほうの人数とする。
Ａ：1日に応需する平均処方せん数が40までは１とし、それ以上40又はその端数を増すごとに１を加えた数。
但し、眼科、耳鼻いんこう科及び歯科の処方せん数については、3分の2に換算して算定する。
Ｂ：医薬品の販売高（消費者に対して直接販売した医薬品の販売高に限る。）の１月平均額800万円までは１とし、それ以上800万円又はその端数を増すごとに１を加えた数。
(2) 業務の適正な運営を図るため、薬局の処方せん受付け状況等を配慮した薬剤師の勤務体制をとること。
(3) 薬局の業務に従事する薬剤師の氏名を、薬局内の見やすい場所に掲示すること。
(4) 薬剤師は、白衣、ネームプレート等を着用し、薬剤師であることを容易に認識できるようにすること。
(5) 薬剤師は薬事関係法規に精通するほか、医療保険関係法規等（老人保健、公費負担関係を含む。）を十分理解し、適正な調剤等に努めること。
(6) 薬剤師は、薬局の業務を適正に遂行するため、薬剤師研修センター、薬剤師会及び薬科大学等が開催する研修を受講し、また自主的な学習に努めること。

9 医薬品の備蓄

(1) 薬局は医療機関が発行する処方せんを円滑に受け入れることができるよう、地域の実情に応じ必要な調剤用医薬品を備蓄すること。
(2) 備蓄する医薬品の数は、処方せん応需の意思が疑われるような少ない品目数であってはならない。
(3) 備蓄する医薬品は、その多くが特定の製造業者の製品に限定されてはならない。
(4) 患者等が持参した処方せんに、薬局に在庫していない医薬品が処方されていた場合に備えて、地域薬剤師会が設置する備蓄センターの利用、卸売業者の協力、地域薬局間での医薬品の分譲等により、迅速に調剤用医薬品が調達できる体制を講じておくこと。

10 開局時間

(1) 開局時間は、地域医療機関や患者の需要に対応できるものであること。
特定の医療機関からの処方せん応需にのみ対応し、当該医療機関の診療時間外及び休診日

に処方せんを応需していない薬局は、早急に改善を図ること。

(2) 開局時間を住民の見やすいところに表示すること。

11　休日、夜間等の対応

(1) 薬局は、行政機関、医師会、歯科医師会、薬剤師会等が実施する地域の休日、夜間の診療体制に参加、協力するなどして、休日、夜間の処方せん応需に努めなければならない。

(2) 開局時には、連絡先又は近隣で開局している当番薬局の案内等を外部から見やすいところに掲示すること。

12　業務

(1) 処方せん応需

①処方せんは薬剤師が責任をもって受け付け、正確かつ迅速に調剤を行うこと。

②薬局は、患者等が持参した処方せんを応需するのが当然の義務であり、正当な理由がなくこれを拒否してはならないこと。

処方せんを拒否することが認められる場合としては、以下のような場合が該当するが、やむを得ず断る場合には、患者等にその理由をよく説明し、適切な調剤が受けられるよう措置すること。

なお、処方医薬品がその薬局に備蓄されていないことを理由とした拒否は認められないものであること。

ア 処方せんの内容に疑義があるが処方医師（又は医療機関）に連絡がつかず、疑義照会できない場合、ただし、当該処方せんの患者がその薬局の近隣の患者の場合は処方せんを預かり、後刻処方医師に疑義照会して調剤すること。

イ 冠婚葬祭、急病等で薬剤師が不在の場合。

ウ 患者の症状等から早急に調剤薬を交付する必要があるが、医薬品の調達に時間を要する場合、ただし、この場合は即時調剤可能な薬局を責任をもって紹介すること。

エ 災害、事故等により、物理的に調剤が不可能な場合。

③恒常的処方せん応需拒否薬局

正当な理由がなく恒常的に処方せん応需を拒否する薬局は、患者に迷惑をかけ、薬局に対する国民の信頼を裏切るとともに、薬局、薬剤師に求められている使命、社会的役割を自ら放棄するものであるから、他の医薬品販売業へ転換することが望ましい。

(2) 薬歴管理、服薬指導

薬剤師は、医薬品の有効で安全な使用、特に重複投薬や相互作用の防止に資するため、患者について調剤された薬剤ばかりでなく、必要に応じ一般医薬品を含めた薬歴管理を行い、適切な服薬指導を実施すること。また、必要に応じ処方医師へ処方の変更等について相談し、その過程の記録を残すなど、患者のための医療を心かけること。

(3) 疑義紹介

薬剤師は、患者が有効かつ安全に調剤された薬剤を使用することができるよう、患者の薬歴管理の記録や患者等との対話を基に薬学的見地から処方せんを確認し、当該処方せんに疑義がある場合は、処方医師に問い合わせて疑義が解消した後でなければ調剤してはならないこと。

なお、疑義照会を行った場合はその記録を残しておくこと。

(4) 薬袋等への記載

薬袋等へは、薬剤師法施行規則で定める事項のほか、服用に際しての注意、問い合わせ先など、患者のために必要な情報をできるだけ記載すること。

(5) 受診の勧め

一般用医薬品等の販売に当たって、一般用医薬品の適用外と思われる場合は、患者が適正な受診の機会を逃すことのないよう、速やかに「かかりつけ医」等への受診を勧めること。

(6) ファクシミリ患者サービス

薬局は、ファクシミリを設置することが望ましい。

なお、処方せん受入れ準備体制のためのファ

クシミリの利用については、薬局が医療機関と申し合わせ、患者等の意思に反して、特定の薬局へ処方内容を電送するよう誘導又は限定することは、認められないものであること。

13　一般用医薬品の供給

(1) 薬局は調剤とあわせて一般医薬品の供給に努めること。

(2) 一般用医薬品の販売に当たっては、必要に応じ薬歴管理を行うとともに、適切な服薬指導を実施すること。

(3) 習慣性や依存性のある医薬品及びその他乱用されやすい医薬品は十分注意して供給すること。

14　医薬品情報の収集等

(1) 常に、医薬品の有効性・安全性に関する情報、副作用情報、保健・医療・介護・福祉情報などを収集し、薬局業務に資すること。

(2) 薬局の業務を円滑に推進するため、関係機関・団体との連絡を密にするとともに、地域住民に必要な情報の提供に努めること。

(3) 医薬品等の副作用等について、薬局利用者からの収集にも努めること。

15　広告

地域保健医療に貢献する薬局として、国民及び医療関係者の信頼を損うことのないよう、品位のある広告に留意すること。

16　在宅医療・福祉

薬局及び薬剤師は調剤及び介護用品等の供給を通じ、在宅医療、福祉に積極的に貢献するよう努力すること。

17　薬事衛生等への参画

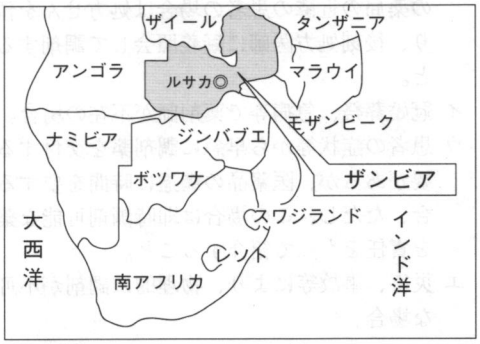
薬局の薬剤師は、薬物乱用防止、学校薬剤師活動、地域の環境衛生の維持向上等に積極的に参画するよう努めること。

ザンビア便りⅣ　無事帰国して

海外青年協力隊　山田節子（31期生）

無事青年海外協力隊2年の任期を終了してザンビアから5月上旬に帰国しました。今、想ってみるとアフリカと言う大陸名以外は、ザンビアという国名もはじめ知らなかった私が、両親を説得して3カ月の研修を経て未知の世界に飛び込んであっという間に経った2年間でした。アフリカというイメージは、未開で原住民が裸同然の姿をし、熱帯病、疫病、飢餓、熱帯雨林が広がり、野生動物がたくさんいる、今は内戦等があってPKOで話題になっているモザンビークやアンゴラがザンビアと接していることもあって、マイナスのイメージの方が強く周りの方々にはいろいろと御心配をおかけしました。

しかし、私にとってザンビアという国は気候が温暖（一年中20℃前後）で、人々は明るく陽気で人なつこく彼らには色々なことを学びました。アフリカ大陸のなかで数少ない内戦のない国でこれは私が思うに8ヶ国に周囲を囲まれた内陸国という立地条件の悪さに由来しているのではないかと思います。



ザンビアは気候的にはサバンナに属し、野生の動物もたくさんいますが、どこにでもいるかというとそういうわけではなく動物保護区とされているところにいます。大きな保護区となると関東平野くらいの広さのところもあるということです。保護区には集落はありません。ですから野生動物は自由にみることが出来るのかというとそんなことはなく、外国人観光者向けの観光ビジネスとして成り立っています。その為、自国にいるたくさんの野生動物ですがザンビア人はライオンや象、キリン、カバなどは見たことがないのではないかと思います。みやげものとして売っている動物の木彫りなども形がアンバランスだったり、ぎごちないなって言うのがあるのもこんなところに理由がありそうです。

私もせっかくここに来たのだからとサファリをしました。隣国のタンザニア・ケニアは観光ビジネスとしてすっかり成り立っているのに比べてザンビアはまだまだといった点がたくさんあり、整備がきちんとされていない分、観光客はより自然に近いワイルド感を味わうことが出来ます。例えば道も完全に整備されているわけでないので、目標物を求めて道なき所を多少の灌木などはなぎ倒して四駆の小型トラックで走ります。そして荷台にあたる部分にベンチが備えてあってそこに座って見るわけで、ガラス戸があるわけでなく、まさにオープン・エアです。早朝はウォーキングサファリといって主に草食動物のいるところですが車から降りて歩いて見てまわりました。しかし先頭には銃を持った現地人ハンターがつき、案内してくれるのですが足跡のみならず、糞から近くにいる動物を推定したりしていました。

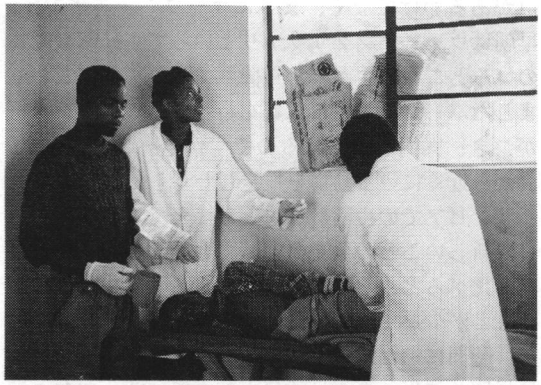
ザンビアでの生活は私にとってとても新鮮で、毎日が新しいことの発見の連続でした。と言うのは日本と比べると、その日のうちにやらなくてはならないことが少なく、時間に関する概念ものんびりなので、時間に追われるということはありません。日本に帰国して思ったのは浦島太郎の話です。二年の間に世界では湾岸戦争からはじまり冷戦が終結し、ソ連は崩壊してしまい、国内でも色々な事が起こっていました。新聞の一日量は朝・夕あわせて相当量になると思います。新聞だけをとってみても何社もあるしテレビもラジオも番組数、放送時間にしても非常にたくさんあるように思います。でも私はこれが当たり前と思って時に気にしないことってたくさんあると思います。ザンビアでは私の住む所は首都から200kmと遠くはなれたこともありますが、全八頁くらいの新聞が週3回、それも2日遅れくらいで到着すれば良い方です。新聞については古新聞であれ、村に行くとき持って行くと貴重品として重宝がられ

水くみをする子供達

小さな子でも頭におけをのせて水運びをします。
彼らの姿勢が良いのも実はこのような訓練があるから!?

アフリカン・ドクター

写真の左後方にあるのが生薬、彼女（左）がドクターで問診をしているところ、時には私達の信じられないウッチ（魔術）を使うこともある。



コレラ病棟

コレラは毎年雨季にあたる11月～3月にかけて流行します。下痢による脱水症状を輸液・経口にて脱するとが大切です。

ムバラの子供たち

カメラを持っているとどこからともなく集まる子供たち。皆大きなクリンとした目に笑顔がとても似合います。

ました。テレビは電波が届かないためほとんど不可能で、もし見られても夕方五時から十一時くらいまでの放送時間です。それに比べ日本では同じニュースをどれもが一斉に取り扱います。極端な発想をすれば無駄に感じることもあります。これからは情報を上手く選択する時代になったのだなあと思いました。

涼しいくらいの高地に住んでいたこともあって、今夏は暑さでばてるかなと覚悟をしていましたが、異常気象の冷夏と多雨には、いささか拍子抜けといった感じです。

今年は特に地震や台風・大雨による被害が多くありましたが、これは都市化により自然と共存することを忘れてしまった私たちへの教訓のように私には感じられました。例えば、突然の停電や断水により非常に不便を感じます。私たちにとって電気や水の供給というのはあって当たり前になっています。しかし、ザンビアでは普通の日常もこう言うことが前触れなく起こるので、水はいつもたらいに汲みおきをしていましたし、懐中電灯、ろうそく、マッチもいつも分かりやすいところに置いてありました。今回、特に思ったのは交通マヒです。JRはじめ地下鉄等で運休が目立ち何人の人の足が奪われたのでしょうか。都市生活のもろさの一面をみた気がしました。今は何かある毎に日本とザンビアとを無意識に比べているようです。表面上は日本社会に復帰したかのようですがまだまだ心のなかでは整理のつかない部分があり、たった2年とはいっても思いの他、どっぷりとザンビアに浸っていたようです。

協力活動の2年間、私のように楽しく暮らせる隊員ばかりとは限りません。あまりの環境のちがいに適応できない人やあるはずの仕事がなかったり様々の原因であまり楽しくない2年を過ごす人も中にはいます。私は以前にもお話しましたように薬剤師で派遣されたにも拘らず薬が慢性的に不足していたため仕事に対するイメージとはずいぶんかけ離れていて薬剤師としての仕事という意味では不十分な出来だったように思いますが、地域住民に溶け込んで日ザ親善大使みたいな役目は務めたかなと思っています。

だれでもが出来ない経験をさせていただいたのですが、今度はこれをどのようにフィードバックしていくかという課題を課せられたように思います。今はとりあえず“アフリカ帰りの”という形容詞を取り除くよう一日もはやく精神的にも整理して落ち着きたいと思っています。

「日本大学薬学卒後教育講座」の現状と今後について

薬学部薬学卒後教育実行委員会　委員長　青　木　正　忠

桜薬会会員の皆様には「日本大学薬学卒後教育講座」（以後本講座と省略します）に常日頃からご協力を賜り心から御礼申し上げます。

さて本講座も平成元年5月に第一回を開催して以来今年9月で27回を数えました。しかし私がなまけていたために経過報告を致しておりません。そこで桜薬会会報編集部の方に無理を言って紙面をいただき、現状と今後について述べさせていただきます。

本講座の必要性については本報の14号に十分に説明されておりますが、それから4年余り経過した現在では薬剤師の質的な変化も要求されて、病院薬学への傾斜も一段と加速していくように思われ、本講座の必要性は一層増大すると思われます。さて本講座の実績は一覧表に示した通りで、27回までの総受講者数は1,667名で1回当たり約62名となります。演題、開催月等によって受講者にばらつきがあり、その開きは10倍以上に達しています。他のこの種の講座にも見られる傾向のようですが、最初の頃は興味も手伝って多くの人を集めますが、その後あるところまで受講者の減少が認められます。最初の10回の1回当たりの受講者数の平均は約90名ですが、最近10回の平均は40名弱でほぼ一定数を維持しています。しかもこの40名の人達の中には本講座が勤め帰りに聴講できて都合がよいので是非このまま維持して欲しいと言う意見も多く、ほとんど毎回受講している人もいるので今後ともこの人達のために形式を変えずに内容の充実を図りながら続けていきたいと思っています。

同窓生の皆様にはお誘い合わせの上今後とも奮ってご参加下さるようお願いいたします。また講座に取りあげて欲しい内容がありましたら青木までお知らせ下さい。

なお本講座の予告は「日本薬剤師会雑誌」、「都薬雑誌」や本会報に掲載しておりますのでご覧下さい。

現在まで継続できましたのは、会場について便宜を計っていただいている日本大学本部関係者の皆さん、また実際に企画・立案に携わっていただいている本委員会委員の先生方、毎回交代で会場係等のお世話を担当していただいている各研究室の先生方及び事務全般について御協力いただいている事務局関係部署の皆様方のご尽力の賜物でありここに御礼申し上げます。そして今後とも御協力のほどお願い申し上げます。

日本大学薬学卒後教育講座第27回までの記録

回数（年月日）	演題	演者
第1回（1. 5.11）	薬剤師職能の現状と今後の課題	小宮弘宣（日本薬剤師会専務理事）
第2回（1. 7.13）	臨床検査の見方・考え方 －検査以前の問題－	河野均也（日本大学医学部臨床病理学教授）
第3回（1. 9.21）	これからの調剤に何が求められるか －患者志向の調剤の実際－	堀岡正義（日本大学理工学部薬学科教授）
第4回（1.11. 9）	老年期の痴呆について	臼井宏（日本大学医学部専任講師）
第5回（2. 1.11）	患者志向の薬剤師をめざして －人生を考えてあげる仕事、それがクリニカルファーマシー－	中原保裕（日本医科大学付属多摩永山病院薬剤科）
第6回（2. 3. 8）	アトピー性皮膚炎と環境抗原、食物抗原 －その臨床像と生活指導について－	藤澤重樹（日本大学医学部皮膚科学教授）
第7回（2. 5.24）	薬の安全性の問題点	福田英臣（日本大学薬学部薬理学教授）
第8回（2. 7.12）	臨床検査の見方・考え方 －新しい検査の方向－	河野均也（日本大学医学部臨床病理学教授）
第9回（2. 9.20）	蒲田薬剤師会の歩んできた組織分業への道 －患者に喜ばれるホームファーマシーをめざして－	盛田捷幸（蒲田薬剤師会常務理事）

第10回（2.11. 8）	歯科疾患と薬物療法	斉藤　毅	（日本大学歯学部教授）
第11回（3. 1.10）	柴胡剤の消化器疾患における応用	大久保　仁	（国立王子病院内科医長・日本大学第3内科講師）
第12回（3. 3.14）	糖尿病と薬物療法	林　洋一	（日本大学医学部第三内科）
第13回（3. 5. 9）	薬局製剤について	内山郁夫	（三重県薬剤師会理事）
第14回（3. 7.11）	急性化学性中毒の一般的対応と救急処置	新谷　茂	（(財)日本中毒情報センター常務理事）
第15回（3. 9. 5）	薬剤師のための臨床検査薬の知識　尿検査を中心に	河合　忠	（自治医科大学教授）
第16回（3.11.21）	歯槽膿漏と薬物療法	村井正大	（日本大学歯学部教授）
第17回（3. 5. 9）	皮膚疾患の最近の治療　－漢方治療も含めて－	馬場俊一	（日本大学医学部皮膚科学教室講師・日本大学駿河台病院皮膚科科長）
第18回（4. 3.12）	新しい医薬品の剤型	内山郁夫	（三重県薬剤師会理事）
第19回（4. 5.14）	OTC化された体外検査薬の最新動向とそれへの対応について	芝　紀代子	（東京医科歯科大学講師）
第20回（4. 7. 9）	高齢者の脳血管障害に対する薬物療法	水谷智彦	（日本大学医学部助教授）
第21回（4. 9.17）	医薬品とバイオテクノロジー	佐藤哲治	（三菱化成㈱医薬事業部）
第22回（4.11.12）	癌治療の最前線　－免疫療法を中心として－	原中勝征	（元東大医科研助教授・大圃病院長）
第23回（5. 1.14）	和漢薬の抗腫瘍作用	原中瑠璃子	（日本大学医学部講師・大圃病院副院長）
第24回（5. 3.11）	アルツハイマー型痴呆の臨床と病理	松下正明	（東京大学医学部教授）
第25回（5. 5.13）	今、求められる薬剤師像	深谷仁恵	（埼玉県衛生部薬務課長）
第26回（5. 7. 8）	MRSA感染症の現況と対策	岩井重富	（日本大学医学部助教授）
第27回（5. 9. 9）	痛みと鎮痛	鈴木　太	（日本大学医学部教授・駿河台病院長）

次回（第28回）ご案内

◎第28回　平成5年11月11日（木）18：00～19：30

「薬局・薬剤師の在宅ケア支援活動と経営課題」

日本薬剤師会薬業経済調査委員会 委員長　久慈 光亮 氏

薬局のあるべき将来像について、厚生省はその指針として「薬局業務運営ガイドライン」を策定し、本年4月30日公表した。このガイドラインでは、今後あるべき薬局は調剤及び一般医薬品の供給を通じて、国民に対し良質かつ適切な医療を供給し、地域保健医療に貢献する必要があり、具体的には地域住民に信頼される「かかりつけ薬局」となることを求めている。この厚生省の「かかりつけ薬局」育成という方針は、日本薬剤師会が平成2年4月1日から発足させた日本薬剤師会制定の「基準薬局制度」と方向を一にするものである。また本年7月9日厚生省が公表した「地域保健対策の基本的な在り方について」の公衆衛生審議会の報告書の中でも「薬局は今後の医療、保健、福祉政策を進める上で活用されるべき重要な社会資源の一つである」としていることとも同根といえる。薬剤師個人個人としては日々研鑽に努めて自らの資質の向上を計ることは勿論、薬局の機能も複数薬剤師勤務制、休日夜間応需体制など地域住民に対して目に見える形での整備を急ぐ必要がある。

また急速に増加している在宅療養患者に対する在宅ケアの現場での薬剤師活動の強化も期待されている。この活動への取組みについては、従来からの服薬に関する助言や介護用品の供給に加えて、在宅ケア、介護支援活動のための情報提供などがあり、すでにいくつかの地域薬剤師会が実践に入っている。

本講座では、これらの薬局・薬剤師を取り巻く環境変化の中で、今後、薬局の在り方、薬局の経営に大きな係わりをもつ「薬局・薬剤師の在宅ケアの支援活動とその経営的課題」について説明し、併せて国としての「高齢者保健福祉十か年戦略（いわゆるゴールドプラン）」、関係施設の紹介など、在宅ケアの理解に欠かせない基本的知識をもお話し申し上げたい。

会　場：日本大学会館　801号室
千代田区九段南4－8－24　℡ 03－3263－2271
※JR中央線 営団有楽町線 都営新宿線 市ヶ谷駅下車 2分

聴講料：1,000円（当日申し受けます）
聴講者には講義資料及び受講証を差し上げます。

問い合わせ先：〒274 千葉県船橋市習志野台7－7－7
日本大学薬学部 庶務課　℡ 0474－65－2111

日本大学薬学卒後教育講座第29回以降のご案内

回数（年月日）	演題	演者	当番研究室
第29回（6. 1.13）	アレルギー性疾患の漢方治療	鎌田慶市郎（鎌田耳鼻咽喉科医院院長）	機能・臨剤
第30回（6. 3.10）	循環器系薬物の使用法（仮題）	梶原長雄（日本大学医学部教授）	薬剤・薬品化
第31回（6. 5.12）	未定	高仲正（国立衛生試験所薬理部長）	衛生・微生
第32回（6. 7.14）	骨粗しょう症	未定	生化・物化
第33回（6. 9. 8）	酸性の水、アルカリ性の水（仮題）	笹野英雄（都立衛生研究所科長）	臨生・保体

研究室だより

化学研究室

桜薬会会員諸兄姉には各方面で元気にご活躍のことと存じます。研究室でも徳竹、香取、本橋、鳥山の四名で一層の向上をめざして教育に、研究に励んでおります。

鳥山助手は、平成四年度いっぱい、東京大学薬学部製薬化学科薬品製造化学教室で研究に精進しておりましたが、このほど研修期間を了え4月から教育、研究に更なるファイトを燃やして邁進しているところであります。新しい分野に新しい手法で挑戦しているだけに苦労しておりますが、研究に平坦な道はないわけで若い情熱と柔軟な思考で成果を挙げてくれるよう願っているところです。

本年度の卒業研究生は男子8名、女子6名の計14名です。7月末には水上・湯檜曽方面へ一泊で研修旅行に出かけました。今年の冷夏と長雨とで天候が心配でしたが、それほど全員の心掛けが良いとも確信できないのに幸いに雨にもたたられずに無事帰着致しました。9月に入るとすぐに後期が始まります。今年は就職状況も一層厳しさを増し、成績だけでなく、人物、態度、話し方、考え方などについてもいろいろな角度からじっくり見られているようです。やはり日頃の生き方、精進が大切ということでしょう。

最後に会員の皆様のご健康と一層のご発展をお祈りいたします。　（徳竹　記）

物理学研究室

桜薬会会員の皆様方におかれましては各方面において益々御活躍の事とお慶び申し上げます。物理学研究室では、杉原教授を中心にスタッフ一同、教育・研究に日夜努力しております。杉原教授と私（小林）は、6月にバッファロー（米国）で開かれた第21回炭素国際会議に出張し、杉原教授は座長などをつとめられ、「THEORY OF THE C-AXIS THERMO-ELECTRIC POWER IN HOPG AND GICs」,「THEORY OF THE C-AXIS CONDUCTION IN GICs」の2テーマ発表されました。また、私も「C-AXIS THERMOELECTRIC POWER IN HOPG AND GICs」のテーマで発表して参りました。

本年度（平成5年度）から本研究室にも初めての卒業研究生として1名（岡部謙二君）が配属となりました。現在、夏休み返上でX線回折装置およびコンピュータグラフィックを用いたテーマに取り組んでおります。

末筆となりましたが皆様の御健康と益々の御活躍をお祈り申し上げるとともに、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。　（小林　記）

生薬研究室

卒業生の皆様には、益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。

研究室では、4月より日本大学の姉妹校であります韓国中央大学校薬学大学より研究生として金　禎洙博士が、生薬の発癌プロモーター抑制効果に関する研究をされています。また、本年卒業の揚孟翰君も研究生として研究室に残られています。また大学院生は、2年生になった國司君、針ヶ谷君、劉さんに加えて、1年生として多田きよみさん、中山敏光君が研究に励んでいます。昨年7月より米国ノースカロライナ大学へ留学されていた北中助教授も8月に無事帰国され、更に研究に励まれています。

研究面では、滝戸教授を代表として医学部中川教授、金沢講師、理工学部田村教授、秋久助教授、と

私の6名による日本大学総合研究「発癌の予防となる天然薬物の検索とその生化学的研究」の助成金を受けています。また、東京都から東洋医学事業研究の一環として、「生薬分析法による品質評価研究（十全大補湯およびその構成生薬の研究）」を、製薬会社から「植物からの医薬品開発の研究」のテーマで委託研究を受けています。

研究成果は、学会発表として薬学会（2演題）、同学会の天然薬物の開発と応用シンポジウム（1演題）、XV International BotanicalCongress（2演題）、生薬学会（3演題）、癌学会（2演題）、本学学術講演会（1演題）に発表しました。論文は、2報で Oncology、Phytotherapy Research に掲載され、現在6報の論文が投稿中です。　本年度の卒論生は、14名（男子10名、女子4名）が配属され、大学院進学希望者5名、第一製薬㈱、等進路が決まりつつあります。先輩諸氏には、後輩を見かけられましたら声をかけて下さいますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。　（安川　記）

微生物学研究室

桜薬会会員の皆様には各方面でご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、当研究室の近況についてお知らせします。

小山先生には日本大学評議委員に選出され、また昨年に引き続き薬学部次長として、一層、忙しい日々を送られています。昨年より副手として頑張って頂きました水野奈穂子さんはこの3月で退職され、4月からは聖路加国際病院薬局に勤務されています。後任には当研究室の卒業生である嘉斉雅美さん（H5卒）が来られました。　また、大学院修士課程に当研究室の卒業生である中島淳くん（H5卒）、八木弘光くん（H5卒）が加わり熱心に研究に取り組んでいます。

平成4年度卒業研究生（写真）は全員卒業、全員国家試験合格を見事果たし、4月からは病院、企業、薬局、進学とそれぞれの進路で頑張っています。今年度は6名の卒業研究生が配属となり、昨年とは打って変わりこじんまりとはしていますが、7月には鬼怒川へ卒研旅行へ行き短い夏のひとときを楽しみました。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康と一層の御活躍をお祈り申し上ます。　（小林　記）

薬化学研究室

桜薬会会員の皆様には、各方面に益々御活躍のこととお慶び申し上げます。

まず教室の近況についてお知らせします。

現在の教室員は長谷川（稔）教授、宮尾助教授、外山、高畠両専任講師、院生の宮沢さん、そして平成5年4月から私、杉山真紀（平成4年度卒）が副手として加わり、現在6名となりました。先生方はそれぞれお元気で、それぞれ研究、教育、就職指導とお忙しい毎日を過ごされています。また、平成4年度まで助手を務めていらっしゃった長谷川弓子先生は、平成4年6月に高畠先生と御結婚され退職なさいました。今は、赤ちゃんの誕生を、研究室一同で心待ちにしています。

平成5年度の卒研生は全員女子の12名で、今までになく華やかな雰囲気です。卒研旅行は箱根へ行き、彫刻の森美術館を見学したり、硫黄の露天風呂に入ったり、夜は懇親会と楽しい一時を過ごし、教職員、院生、卒研生がお互いの親睦を深めました。

ここで一つお知らせがあります。平成6年6月19日

（日）ホテルグランドパレス（都内千代田区飯田橋1−1−1）にて薬化学同窓会を行なう予定です。

詳しくは、後日あらためてお知らせ致します。お忙しいとは存じますが、多数の御出席をお待ち致しております。

末筆ながら皆様の御健康と一層の御活躍をお祈り申し上げます。　（杉山　記）

薬剤学研究室

桜薬会会員の皆様には各方面においてご活躍のことと御推察いたします。研究室員一同、恙なく勤務しております。

今年3月、学部になって2回目の卒業生を送り出しました。当研究室では18名が在籍し、全員卒業致しました。今年度は14名の学生が配属になり、例年通り軽井沢研修所へ卒研旅行に行ってまいりました。今年の夏は雨が多く花火大会も雨の中となりました。今年も明るく優秀な学生が揃っており、楽しい学生生活が送れることと思います。就職は不況で大変なようです。今年も病院希望者が多数おりますので、病院の求人がありましたら、ご一報下さい。

さて、今年4月付で伴野助手が専任講師になりました。早速4年生担任を受持ち大変なようです。相変わらず地下鉄は走りそうもありませんが、北習志野駅の工事も後わずかのようですし、日大敷地内にあった地下掘削塔も取り除かれましたので近いうちに完成する事を期待しております。地下鉄が通りましたら一度お越しください。

最後になりましたが卒業生の皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。　（後藤 記）

薬事管理学研究室

経営学研究室,薬事・経済学研究室、薬事管理学研究室ご出身の皆様には、各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。

前会報以後の研究室の近況をお知らせいたします。

まず、研究室員の移動はなく、中村健助教授と助手の亀井の2名で引き続き、教育・研究に当たっております。中村健先生は、永年の研究業績（「保険調剤論」）が認められ、本年3月に神戸学院大学より博士（薬学）の学位を授与されました。また、助手の亀井は本年3月に筑波大学より修士（経営学）の学位を授与されました。当研究室では、今後とも医療のニーズに応えた諸研究に取り組んでいきたいと、頑張っております。

次に、卒業研究生の状況ですが、平成4年3月に卒業した卒研生は、全員薬剤師国家試験に合格し、製薬企業と病院での仕事に励んでいます。また、平成5年度の卒業研究生は女子のみ5名が配属されました。皆明るくて美人ぞろいです。人数が少ないせいか仲が良く、和やかな雰囲気です。卒研旅行は7月31日より2泊3日で箱根に行ってまいりました。芦ノ湖の花火大会の見学、旧街道の散策などをして親睦を深めました。

さて、昨年11月22日に澤村良二薬学部長、中村泉美先生をお迎えして開催した当研究室同窓会には100名近いOBの参加を得、恩師や同窓生同士の歓談も弾み、盛況を極めました。本年は、年明けに薬事管理学研究室同窓会（経営学研究室,薬事・経済学研究室,薬事管理学研究室の合同同窓会）の開催を予定しています。後日、詳しい案内状を送付いたしますので、皆様お誘い合わせの上ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、桜薬会会員の皆様方におかれましても今後もお元気にご活躍されますようお祈り致します。　（亀井　記）

薬品化学研究室

桜薬会会員の皆様には各方面で御活躍のこととお慶び申し上げます。

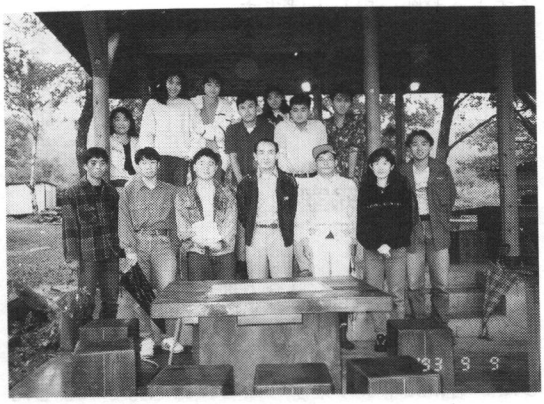
本年度、当研究室には大きな変化がもたらされました。昭和32年より薬学のために御尽力されました桐澤誠教授が、昨年11月末日をもって退職され、1

月1日付で、日本大学名誉教授に就任されました。4月からは、藤本康雄助教授が教授、三宅宗晴助手が専任講師に昇格され、私、大越美加が副手として勤務致しております。また、内倉和雄専任講師は、5月より海外派遣研究員（中期）として、米国イリノイ大学に半年間の御予定で留学されております。このようなスタッフの変化のみならず、本年度は、当研究室大学院修士課程に本学卒業生1名と昭和薬科大学卒業生1名が新たなメンバーとして加わりました。また卒研生は、13名（男性9名女性4名）が配属され、卒業研究に取り組んでおり、研究室はまさに活気づいております。

さて、恒例の研究室旅行は、9月9日、台風14号が本州に上陸する中、長野県の駒出池キャンプ上に向かいました。幸い夕方には、雨も上がり、夕焼け空の下、浅間山をはじめ美しい山々を望むことができました。翌、10日は山登りを行いキャンプ場に程近い保養所にて宿をとり、夜もすがら親睦を深めました。現在、卒研生は卒業論文の完成を目指し、大学院生とともに実験に励んでおります。

恒例となりました薬品化学同窓会を11月14日（日）東京ステーションホテルにて開催いたしますので、万障お繰り合わせの上、多数の御出席をお待ちしております。

最後になりましたが、会員の皆様の御健勝と一層の御発展をお祈り申し上げます。　（大越　記）



薬品物理化学研究室

今年の夏は冷夏で、しかも台風の当たり年、地球の異常気象がその侭日本を直撃した感じのする夏でした。その後桜薬会会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと推察し、お慶び申し上げます。

お陰様で、当研究室も小生をはじめ、小川・斎藤・田口の各先生それぞれ変わりなく研鑽に励んでおります。今年からは初めての院生として三浦君が入室し、来春からは更に2人の院生の入室が決まっています。研究室も研究態勢の充実と共に、いよいよ賑やかになってまいります。

今年度の卒研生は14名（男性8名、女性6名）の配属になりました。恒例の夏の研修旅行では伊豆長岡温泉に1泊し、ミーティングの後カラオケ大会などをして楽しいひと夜を過ごしました。目下後期からの卒論に向けて文献調査を行っています。

来年度の就職状況ですが、例年になく企業志向の学生には就職活動の厳しいものがありました。幸い、当研究室の卒研生は医療方面への希望者が多く、今年中には全員決まるものと楽観しています。

薬学部では既に御案内の通り、今年大学院にかかわる二つの大きなプロジェクトがスタートすることになっています。その一つは大学院博士後期課程の認可申請で、他の一つは研究図書館棟の建設です。このどちらもが理工学部薬学科時代からの悲願であり、40有余年の歴史の集大成ともなる出来事として明年度の完成が待たれるわけです。このことは大学は勿論、会員の皆様にとってもこの上ない慶びと存じ上げます。今後、母校の益々の発展が期待されると同時に責任の重みを感じている昨今です。何とぞ会員の皆様におかれましても、今後より一層の御支援、御協力をお願い申し上げる次第です。

最後に、会員各位の御発展と御健勝を心から祈念申し上げ、近況報告に変えさせていただきます。

なお、当研究室では前報で御案内の通り、薫会会員の近況の把握を兼ねて名簿（平成5年発行の予定）の作成を急いでおります。住所・勤務先その他に変更が御座いましたら研究室まで御連絡下さい。お願

い致します。（佐藤　記）

連絡先：〒274 船橋市習志野台7-7-1
日本大学薬学部薬品物理化学研究室
薫　会　宛
TEL　0474-65-6887（直）

物化卒研生の研修旅行（伊豆長岡温泉にて）

薬品分析学研究室

会員の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。今年度は、修士1年の吉田緑さん、研究生の小倉徳久君、卒業研究生10名（男子5名女子5名）を新たに加えて教室員一同元気に頑張っています。桃澤教授は今年も大学院学務委員長としてお忙しい日々を送っています。また、7月末より道祖土先生が長期海外派遣研究員として米国イリノイ州立大学医学部に1年間の予定で留学しています。

恒例の研究室同窓会が去る6月5日にお茶の水のホテルじゅ楽で、山本先生をはじめ多数のご参加を頂いて盛会に行われました。お招き頂いた卒研生には貴重なアドバイスを頂き、ありがとうございました。同窓会は毎年6月の第1土曜日に同会場で行うこととなりましたので、ぜひ御予定頂き、お目にかかるのを楽しみにしております。

7月下旬には卒研旅行で鬼怒川へ、また分析研究会の旅行で那須へ行ってきました。天候には恵まれませんでしたが、互いの親睦と秋に向けての鋭気を養ってきました。景気が気がかりですが、就職活動もいよいよ本格化しています。卒研生も精一杯の努力をすることと期待していますので暖かい御支援をお願い致します。

さて、御挨拶が遅くなりましたが、私は一昨年11月末から1年間、桃澤教授をはじめ研究室、大学など皆様の御理解と御力添えを得て、米国国立衛生研究所（NIH）において伊東洋一郎博士の御指導により「向流クロマトグラフィーの研究」を行ってきました。かつて桃澤教授もNIHに留学されており、また、テーマも現在研究室で行っているものと同じですので、米国で得られた成果を研究と教育に生かしていきたいと考えています。今後とも御指導、御鞭達を賜りますようよろしくお願い致します。

末筆ながら、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。（四宮　記）

臨床薬剤学研究室

桜薬会会員の皆様にはお元気に御活躍のこととお慶び申し上げます。平成4年度末から平成5年8月までの当研究室の動静について御報告します。

平成4年度卒論性18名は全員無事卒業し、国試にも合格し新しい人生のスタートを切りました。就職先は企業4名、調剤業務11名、大学院2名、その他1名です。

平成5年度の教室員は教員4名、大学院生6名（MC2年生1名、MC1年生5名）、卒論性13名（実験組8名、演習組5名）の総勢23名です。

卒論旅行は7月27日～28日に1泊2日で西伊豆の土肥に行きました。前日までぐずついた天気でしたが、この2日間は比較的好転に恵まれテニス、浜辺の散策、花火大会そして夕食後のコンパと楽しい一時を過ごして親睦を深め翌朝解散しました。

昨年1月からアメリカのシカゴ大学に留学していた九川文彦専任講師は8月30日成田着のユナイテッド航空機で無事帰国しました。成果が今後の研究に活かされることを願っています。

衛生化学研究室

桜薬会の皆様には各方面で益々のご活躍の事とお慶び申し上げます。研究室では澤村教授をはじめ全員がかわりなく元気で頑張っております。

4月には修士課程第二期生として、唐鎌清華さん、横山研治君、及び脇田一亮君の3名を迎えて研究室はますますにぎやかになり、大変狭くなり、修士課程第一期生の3名共々研究に日々いそしんでおります。

5年度の卒業研究生は、14名（男性2名、女性12名）です。試験も終わり9月から本格的に実験を始めます。昨年と反対で女性の方が圧倒的に多いので一味違った雰囲気の研究室になりそうです。卒研旅行は、たまの晴れ間の7月27、28日の両日、暑さの中熱海温泉へ出かけました。MOA美術館からの帰り道、急な坂道にあえぎながらソテツの実をとったり、夜には海岸で花火やコンパで騒いで、親睦を深めてきました。

恒例のカッパ会が、6月19日にお茶の水「ホテル聚楽」にて開催されました。約80名の会員が出席し、澤村先生をかこんで楽しい一時を過ごしました。

昨年と同様に本年度の就職状況は厳しいものとなっておりますので、諸先輩方の御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の御健勝と一層の御発展をお祈りいたします。（野島　記）

機能形態学研究室

桜薬会会員の皆様には、各方面でお元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。　当研究室の近況をお知らせします。

村上教授は昨年度に引続き学務の方を担当され、薬学部の教育に関する仕事でご多忙な毎日を送られています。また、アメリカの NIDA/ARCに1年半の間長期留学されていた草間　貞専任講師が今年3月無事帰国され、研究室は前にも増して研究・教育に活況を呈してきました。

当研究室第1号の大学院生として昨年度卒研生の中から小竹宏幸君が入室し、充実した研究活動に励んでいます。本年度の卒研生として14名が配属になり、7月27・28日の1泊2日の研修旅行で箱根方面へ行ってまいりました。幸運にも晴天と強い日差し（日焼け!?）に恵まれ、海岸でのすいか割りやバレーボール、ボーリング、夜は先生方の講演会（宴会）を楽しみ、大いに親睦を深めて
きました。

これから卒研生は本格的な研究・実験に参加されますが、期待される成果が得られるよう研究室スタッフ共々頑張りたいと考えております。

最後になりましたが、皆様のご健康と一層のご発展をお祈りいたします。（中野　記）

薬理学研究室

桜薬会会員の皆様には各方面でお元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

研究室の近況についてご報告いたします。福田教授は、薬学部研究担当として大学院博士過程の申請に関する仕事や、日本毒科学会理事長など対外的な仕事で忙しい毎日を過ごされております。牧村講師は、6月末より約3ヶ月間米国ミシシッピ大学医学センターに出張しています。4月からは、大学院修士課程の愛沢昌宏、財津英子、三谷一之の3名が入室し、2名の修士2年生（安彦、瀬川）を含め計5名の修士課程の学生がそれぞれのテーマで日夜頑張っています。また、本年度（平成5年度）は男性8名、女性3名の計11名の卒研生が配属され、各人のテーマにそって実験、文献検索を行う予定です。

今年10月23日（土）には、薬物同窓会総会と懇親会が、薬学部で行われる予定です。この機会に、より多くの薬物同窓会の同窓生の皆様に、薬学部や当研究室の様子を見ていただきたいく、是非ご参加下さいますよう研究室からもお願い申し上げます。また、同窓会の名称も、日本大学薬学部薬理学研究室同窓会（通称　薬物同窓会）に変更される予定で、同窓会会則も新しく生まれ変わることになりました。新村会長をはじめ、常任幹事の諸氏[池上、高本（17期）、岡安（18期）]また学内から渡邊、草間（貞）両氏、事務局より石毛と伊藤が参加して、去る8月20日に薬学部で常任幹事会が開かれました。薬物同窓会総会および懇親会開催に関する件、ばいえんし発行の問題点、会則に関する事項などについて議論を重ねました。その後、上記常任幹事諸氏のご尽力により新会則の原案が出来上がりました。この会則（案）は、9月10日の幹事会を経て、10月23日の総会で新しい会則としてご承認いただく予定です。皆様のご理解をお願いいたします。最後になりましたが、この度の私の日本薬理学会学術奨励賞受賞に関し、日本大学薬学部同窓会からたいへん立派な記念品をいただきました。この紙面をおかりいたしまして薬学部同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。

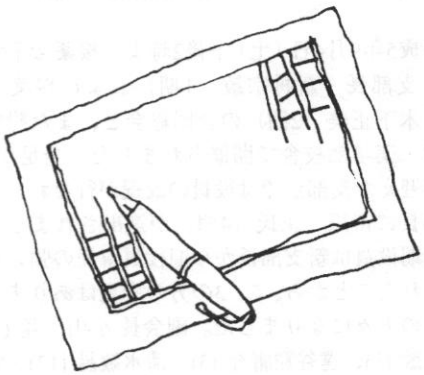
末筆ながら、会員の皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げます。　（伊藤　記）

臨床生化学研究室

桜薬会会員の皆様には、各方面でお元気に御活躍のこととお慶び申し上げます。当教室も長谷川　明教授をはじめ教室員一同研究、教育の充実を目指してより一層頑張って居ります。

臨床生化学教室の近況をお知らせ致します。先ず教室員の異動に関して、平成5年4月より山中健三助手が専任講師に昇進致しました。スタッフ一同今後の益々の活躍に期待しております。また、本年も当教室に大学院生が2名（池田　真、大坪香織）配属されました。彼等も入学後半年が過ぎ、学部の学生とは異なった環境に徐徐に慣れてきた様で日夜実験研究に勤しんでおります。大学院2年生の4名もまた大学院修了まで僅か数カ月を残し、各人の修士論文成就に向けて毎日頑張っています。本年の卒研生は男性5名、女性9名の計14名が配属され、研究室に新風を吹き込み、活気ある学生生活を送っています。毎年研究室の人員が増加する折、本年末に着工が予定されている新研究棟の早期完成が待ち望まれます。

末筆乍ら、会員の皆様の御健康と益々の御活躍を祈念致します。　（加藤　記）



支部だより

大阪府支部

大阪城の桜がちらほらと咲き出す3月30日、日本薬学会113年会（於　大阪工業大学）に出席の母校の先生方を迎えて、大阪ライオンズホテルで懇親会を開催致しました。懇親会は狐塚識夫支部長、高仲会長の挨拶に続き、小山薬学部次長の母校近況報告ののち、懇親に移った。懇親会はたいへん楽しい会合で、幹事を務めた木下義文夫妻（56年卒）の努力によるものと出席者一同感謝していた。　（事務局）

「桜薬会千葉県支部・桜葉会」合同総会の記

平成5年9月4日（土）午後2時より桜薬会千葉県支部（支部長・新村宗敏　1期）および桜葉会（会長・木下正美　2期）の合同総会と、また懇親会が母校・薬学部校舎で開催されました。発足から4年目を迎えた支部会では役員の改選が行なわれ、次期支部長に市原　正氏（4期）が選出されました。また次期役員は新支部長から旧役員留任の強い要望が出されたことから、2、3の方の変更はありましたが以下の方々になりました。副会長:小山　隆 (1)、新村宗敏 (1)、達谷窟庸介 (3)、清水敏昌 (12)。常任幹事:渋江洋介 (6)、安藤修一 (7)、今吉佑子 (11)、草間貞 (15)、藤原良雄 (16)、また幹事（各期1名）および監事も2、3の変更を除き現役員が再任されました。

なお、これまで本支部会の発会とその後の活動に大きく貢献してきました桜葉会は発展的改組し、今後は桜薬会千葉県支部に全面的協力してゆく旨の挨拶が木下正美会長からありました。

会務、会計報告などの後、小山　隆氏から薬学部の近況報告があり、明年4月からの大学院博士課程を開設するための準備が行なわれていること、研究・図書館棟の増設計画など、ますます充実・発展しつつある母校の現状説明がありました。

総会終了後、特別講演「医療のなかの薬剤師-過去、現在、未来-」　講師・順天堂大学浦安病院薬剤部長　小清水敏昌氏（12期）の約1時間にわたる講演を拝聴し、引き続き会場を薬学部の食堂に移して懇親会を開催しました。ご来賓の沢村良二薬学部長、加納　弘日本大学校友会千葉県支部長にご挨拶を頂戴した後、渡辺瑞男薬学部事務長のご発声で開宴しました。丁度台風13号の接近で出足が心配されましたが、幸い千葉県下はあまり影響を受けず約40名の出席の下で遅くまで歓談が続きました。市原

千葉県支部

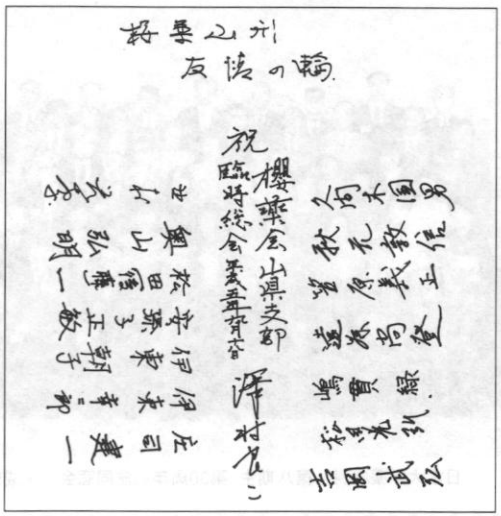
正次期支部長の本会に対する今後の抱負、新村宗敏支部長よりこれまでの会員の皆様のご協力の謝意と更なる積極的な協力の挨拶の後、木下正美氏のご発声で3本締めにより閉会しました。

なお、今後の本支部会開催については毎年東京で開催される桜薬会総会への参加も考慮しながらその時期を検討し、桜薬会報を通じて会員の皆様にご連絡を申し上げることが総会の席上で話し合われました。（新村　記）

山形県支部

オール日大山形県校友会総会の案内と共に薬学部として10名位の出席要請が届きました。平成5年9月18日（土）とありました。そこで連絡のすぐ付けやすい方10名ご案内状を送付し、電話で再度のお願いをしなんとか、5名の出席をとりつけ、出席者を事務局へ連絡したところ、大学の校友会から来賓として、薬学の澤村副総長が出席するので10名フルエントリーをたのむとのこと、再度お願いしてみましたが、勤務の方が多く夜なら何とか出席出来るとの声が多く出ました。事務局からの電話で午後1時山形新幹線で到着、18時の新幹線で帰京とのことでしたので衛生の教室へ電話を入れ、何とか山形でゆっくりしていただきたいと申し込みをいたしましたところ、先生から心よい御返事をいただき、一泊して皆様のお顔も拝したいとのことでしたので、18日の夜、久間木支部長（生薬39年卒）を中心に、総会を開催することに急きょ決定。

昼はだめだが、夜なら私もと15名のメンバーが出席、先生と20年ぶりにお会いした方、旧姓を名のらないと思い出せなかった方もいらして、薬学部の近況と展望を澤村先生からお話をいただきました。山形名物「いも煮」を中心に思い出話に花が咲き、地酒の味のほどよい酔いがまわり楽しい一夜となりました。会場となった、山形でも有数の料亭「山水」の庭を見ながらの澤村先生を囲む会は楽しいおしゃべりの会、続いて二次会の「吟雑」ではめったに聞くことの出来ない澤村先生のカラオケの名調子（迷のほうかな？）を拝聴させていただき最後に家にたどりついた方は朝もやの中だったと聞いております。翌日、奥の細道、「山寺、立石寺」を御案内、芭蕉記念館にて、お抹茶をいただき、帰りに館長より記念に貯蔵品カタログを賜り先生のお土産にしました。次回は来年の総会は6月のさくらんぼの季節をと思っております。今回出席出来なかった山形県支部の方々は是非出席して、旧交をあたためてください。庄内空港の開港もありましたので、東京からも便利になりましたので開催も考えております。天候に恵まれ秋の一日、思い出の一頁になればと報告しておきます。（北村　記）



山形県支部

卒業30周年記念同期会開催

八期生

日大薬学科八期生の卒業30周年記念同期会が5月8日（土）18時より、目白の椿山荘楓の間で恩師の先生方を含めて70余名が集い盛大に行われました。大変お忙しいところ澤村良二薬学部長、里見政吉・村越善衛両名誉教授、小山隆先生、桃沢洋三先生、山内盛先生及び中村泉美先生並びに薬学部校友会会長高仲正氏の御出席を戴き、意義深いひとときを過ごさせて戴くことができました。同期生は全国から57名が出席、30年前を懐かしみつつ久方ぶりの再会を喜び合いました。

会は記念撮影に始まり、石川・金光両君の進行で、まず会長挨拶、澤村先生の挨拶と習志野台における薬学部の現況と今後の課題についてお話を戴き、高仲会長の御祝辞、里見先生の乾杯の音頭の後懇談に入りました。その後、研究室毎の近況報告や恩師の先生を交えての記念撮影等となり、和気あいあいの一時を過ごすことができました。話は尽きることなく一瞬の時は流れ、再会を約してお開きになりました。別れは惜しく、二次会は銀座へと繰り出しました。そして尽きない話とカラオケで深夜の散会となりました。

次回の会長は長崎雅彦君に決定し、遅くとも5年後の再会を誓いました。その時は同期生全員が元気な姿でまた会えるように願っております。

追記：今回の幹事会で同期会会費の預金の一部金50万円也を薬学部育成基金として寄付させて戴くことが決まり、5月27日澤村薬学部長にその目録をお渡し致しました。

（渡辺正孝　記）

日本大学薬学科　第八期生 第30周年記念同窓会　平成5年5月8日　於 椿山荘

会合予告

本年度日本薬剤師会学術大会が福岡市で開催されます。これに合わせて北九州市を中心とした日本大学薬学部校友会懇親会を開くのが恒例でしたが、本年度は薬剤師会の方針で大学毎の懇親会を開くことをやめ、大学毎のテーブルを作り、薬科大学校友会合同の懇親会と行うことになりました。大学からは澤村学部長、中村健先生が出席されます。本校友会会員はどなたでも出席できますので、御希望の方は下記に従い、申込されますようお願い致します。

記

期　日：平成5年11月6日（土）
場　所：リーガロイヤルホテル小倉
会　費：7,000円
申込先：当日会場で受付
問い合わせ先：第26回日本薬剤師会運営委員会
福岡県薬剤師会
TEL　092－271－3791
または　薬学部校友会福岡県支部長
大神信勝（1期）
ライフ薬局大神
TEL　0948－25－6903

事務局だより

平成5年版 会員名簿 発行決定す

平成5年版　会員名簿　の発行が総会で決定致しました。本文は氏名・卒論・卒年・住所・電話・勤務先・勤務先電話を地域郵便番号順に編集致しますので卒年が違っても御家族が同一ページに並びます。索引は卒年と総索引の二本立てとします。名簿原簿は平成5年総会に際して皆様に送付致しました記載事項確認用紙に従い作成いたします。会員名簿は5年毎の発行になりますので、次回発行は平成10年になります。住所録は会報送付、クラス会案内等の原簿となりますので、正確であることが必要です。平成5年5月以降に前記事項に変更が有る会員は　至急　事務局に連絡して下さい。発行部数は予約部数としますので、同封振替用紙での振込をもって、申込とします。希望者は下記期日まで代金の振込をされるようお願い致します。

記

記載事項：平成5年11月1日現在
本文は氏名・卒論・卒年・住所・電話・勤務先・勤務先電話
索引は卒年と総索引

発 行 日：平成6年1月1日
配布方法：予約申込の会員に限定配布
印刷部数：予約部数
予約価格：4,000円（予約申込による前納）
予約締切：平成5年11月末日

平成5年度　総会報告

薬学部校友会通常総会は会則に従い、平成5年7月3日（土）午後2時より日本大学会館203会議室で開催された。高仲会長挨拶の後、議長団として、8期波間美佐子、寺沢正孝の二氏を選出し、別掲の庶務報告、事業報告、決算報告、監査報告、会則改正案、事業計画案、予算案、役員改選につき審議が行われ、新会長に原田貞亮氏（1期）を満場一致で選出承認された。引き続き地下食堂で開催された懇親会には日本大学総長・理事長代理としての澤村学部長、農獣医学部校友会会長茂沢杲氏、理工学部工科校友会副会長木村吉巳氏、生産工学部校友会会長星雅之氏はじめ母校教職員多数を迎え、賑やかな雰囲気で開かれた。会途中には、日本大学校友会会長柴田勝治氏、工学部校友会会長半澤忠氏、歯学部校友会会長伊藤祐光氏の祝電が披露されたり、恒例の福引きが行われたりと賑やかな内に閉会いたしました。

主な事業報告

○会報発行　桜薬会会報18号、19号発行
○会員資料の整備
新規登録　252件
○会員名簿（昭和63年版）追補の発行
○就職紹介……
求　人：33件　　前年比　−2件
○地方支部会等の開催
埼玉県支部懇親会　4. 4. 3.
於 浦和市　高仲会長、澤村先生 他 80名
富山県支部懇親会　4. 9. 12.
於 富山市　中村理事、澤村先生 他 14名
栃木県支部懇親会　4. 9. 12.
於 宇都宮市 山内事務局長、佐藤先生 他 7名
大阪支部懇親会　5. 3. 30.
於 大阪市　小山副会長、滝戸先生 他 25名
17期生卒業20周年記念クラス会　4. 4. 10.
於 浦安市　高仲会長、澤村先生 他 128名
12期生卒業25周年記念クラス会　4. 6. 4.
於 東京都　高仲会長、澤村先生 他 70名

7期生卒業30周年記念クラス会　　4. 8. 8.
　於 東京都　高仲会長、澤村先生 他 58名

○学生会員活動補助

桜薬祭補助（行事参加：第三回桜薬クイズ）
　上位入賞者に「奨学金」贈呈
新卒業生に卒業記念品を配布
　三省堂：用語用字辞典
　会員名簿追補（5）
薬学部スポーツ大会補助：ウーロン茶800本

○卒後教育講座の後援

高仲会長及び笹野副会長（事業担当）が大学設置の委員会に参画し、薬学部・薬剤師研修センターの共催で、5、7、9、11、1、3の各月に開催される「薬学卒後教育講座」を後援した。
開催場所：日本大学会館会議室
　受講者　延 300名

○日本大学薬学部募金事業に協力

薬学部が行う教育研究基金・奨学基金・教育研究施設整備拡充資金の募金事業に協力のため、会員に募金を呼びかけた。
割当目標額　7,000万円（総額：20,000万円）
平成5年5月31日現在　16,257,250円（23%）

○カレッジカード発行

VISA、JCB両カード会社と事業契約を締結し、申込用紙を会員に送付した。

財　務　報　告

平成4年度決算報告　　4. 4. 1 ～ 5. 3. 31.

○ 収入の部

科　目	予　算	決　算	増 減 △
入 会 金	2,500,000	1,620,000	△880,000
年 会 費	4,680,000	4,838,000	158,000
利　子	500,000	423,929	△ 76,071
雑 収 入	300,000		7,000
総会懇親会会費		147,000	
祝 儀 他		160,000	
前年度繰越	1,531,106	1,531,106	0
合　計	9,511,106	8,720,035	△791,071

○ 支出の部

科　目	予　算	決　算	増 減 △
1 事 業 費			
1 会誌発行費			
印 刷 費	1,600,000	1,625,237	25,237
編 集 費	100,000	69,000	△ 31,000
発 送 費	950,000	975,452	25,452
2 活動補助費			
卒後教育講座	300,000	300,000	0
支 部 等	200,000	215,470	15,470
学生会員	700,000	577,260	△122,740
2 会 議 費			
1 総 会 費	500,000	388,160	△111,840
2 委員会費	250,000	122,090	△127,910
3 印 刷 費	350,000	387,486	37,486
4 発 送 費	600,000	556,520	△ 43,480
3 事務局費			
1 管 理 費	1,200,000	1,165,521	△ 34,479
2 人 件 費	1,200,000	1,174,440	△ 25,560
3 旅費交通費	350,000	21,720	△328,280
4 通 信 費	100,000	77,774	△ 22,226
4 そ の 他			
1 本部等分担金	400,000	400,000	0
2 名簿積立金	400,000	400,000	0
3 予 備 費	311,106		△106,393
祝儀他		204,713	
4 次年度繰越金	0		
経常費繰越		59,192	59,192
合　計	9,511,106	8,720,035	△791,071

予　算　案

平成5年度予算案　　5. 4. 1 ～ 6. 3. 31.

○ 収入の部

科　目	当　年	前　年	増 減 △
入 会 金	2,370,000	2,500,000	△130,000
年 会 費	4,980,000	4,680,000	300,000
利　子	500,000	500,000	0
雑 収 入	300,000	300,000	0
前年度繰越	59,192	1,531,106	△1,471,914
合　計	8,209,192	9,511,106	△1,301,914

○ 支出の部

科　目	当　年	前　年	増減△
1 事業費			
1 会誌発行費			
印刷費	1,600,000	1,600,000	0
編集費	100,000	100,000	0
発送費	950,000	950,000	0
2 活動補助費			
卒後教育講座	300,000	300,000	0
支部等	300,000	200,000	100,000
学生会員	600,000	700,000	△100,000
2 会議費			
1 総会費	400,000	500,000	△100,000
2 委員会費	200,000	250,000	△ 50,000
3 印刷費	350,000	350,000	0
4 発送費	550,000	600,000	△ 50,000
3 事務局費			
1 管理費	200,000	1,200,000	△1,000,000
2 人件費	1,200,000	1,200,000	0
3 旅費交通費	200,000	350,000	△ 150,000
4 通信費	100,000	100,000	0
4 その他			
1 本部等分担金	400,000	400,000	0
2 名簿積立金	400,000	400,000	0
3 予備費	359,192	311,106	48,086
合　計	8,209,192	9,511,106	△1,301,914

役員承認

任期 5. 4. 1. ～ 8. 3. 31.

名誉会長　澤村良二（薬学部学部長）
会長　原田貞亮（昭和31年卒）
副会長　小山隆（昭和31年卒：学内）
副会長　笹野英雄（昭和34年卒）
副会長　梶沢洋三（昭和34年卒：学内）
副会長　前田敏晴（昭和36年卒）
顧問　高仲正（昭和32年卒：前会長）
事務局長　山内盛（昭和34年卒：学内）

理事　※：卒業期選出常任理事　§：会長指名常任理事

昭和31年卒　原田貞亮※　石田隆夫§　大林温§
木下肇§　分林孝夫§

昭和32年卒　鈴木康雄※　石黒文夫§　高木茂夫
鶴田実　若松佳子
昭和33年卒　中村勝義※　毛利正§　大久保令子
高取和郎　竹内清
昭和34年卒　笹野英雄※　小倉嘉五郎§　木村清
小泉守　島峰望彦
昭和35年卒　君島正彬※　鈴木重文§　奥窪伸之
黒沢淑郎　斉藤隆
昭和36年卒　前田敏晴※　松島章浩§　金西信次
草間義道　玉田輝巳
昭和37年卒　藤原充雄※　小山征治§　安藤脩一
今井康雄　矢崎和則
昭和38年卒　波間美佐子※　金光慶典§　寺沢正孝
長崎雅彦　渡辺正孝
昭和39年卒　中野紘一※　中村有広§　勝木康隆
小松康宏　杉山義夫
昭和40年卒　坂田英明※　杉谷英雄§　太田健三
岡本繁雄　滝下満之
昭和41年卒　鈴木鎮世※　稲垣英夫§　加納節夫
灰原義夫　塚本昭次郎
昭和42年卒　鈴木長生※　小清水敏昌§　荒井正雄
兼子勇　桜井善典
昭和43年卒　高橋繁治※　秋山美智子　菊谷由己夫
小林繁　松田信行
昭和44年卒　岸田邦雄※　牛込陛阜　小川仁志
武田文男　西村友則
昭和45年卒　黒河内雅夫※　内垣節夫　藤井祐一
本吉義博　森孝之
昭和46年卒　藤田正雄※　奥村恭久　鈴木至
中村勝己　肥田興造
昭和47年卒　高木健光※　国井敏信　久保秀一
矢野間道明　吉田守
昭和48年卒　大川成司※　大河内一紀　樺島順一郎
三山義博　露木裕
昭和49年卒　布目敏正※　芹沢典裕　日向一正
松本徹　山上和夫
昭和50年卒　鈴木俊一※　井出純子　金井覚
嶋元　南武夫
昭和51年卒　杉森万千日児※　河村俊一　鈴木孝
豊田隆　樋口弘子

昭和52年卒	苅部博哲※	菅野圭介	木村　修
	本馬康弘	山本　晃	
昭和53年卒	熊井俊夫※	河相行宏	葛岡康広
	西　利和	吉野達規	
昭和54年卒	藤田　進※	石塚善久	長瀬勝美
	松島利恵子	山口　明	
昭和55年卒	田中淳一※	飯島尚志	梅沢芳史
	神山準一	小島　進	
昭和56年卒	大賀真司※	川上輝明	鈴木克春
	瀬戸　悟	玉置邦彦	
昭和57年卒	森口栄孝※	山下義昭	伊藤　純
	久米　実	茂市一平	
昭和58年卒	遠藤正浩※	川上千秋	小棚木荒太
	平沢和彦	宮崎　博	
昭和59年卒	加藤奈津江※	石田正弘	川上良江
	川辺良樹	古畑雄司	
昭和60年卒	斉藤勝己※	伊沢克彦	牛込彰彦
	武藤和広	高橋善一	
昭和61年卒	原　英行※	高松　智	田中淳子
	平井康正	吉野隆章	
昭和62年卒	椎名宏吉※	石井武男	香山文明
	岸　哲也	鈴木弘孝	
昭和63年卒	笹本　修※	鹿島雅美	木下賢治
	坂入宣子	前田雄一	
平成元年卒	桜井庄二※	西周さとみ	鶴岡文徳
	徳川雅一	峯岸寿美子	
平成２年卒	鈴木秀幸※	神谷　洋	白石弘二
	杉本勝昭	津嶋吉実	
平成３年卒	中嶋順一※	劉　素延	富田麻子
	藤澤秀樹	持田　猛	
平成４年卒	青木孝史※	今泉　光	國司　学
	針ヶ谷哲也	宮澤智之	
平成５年卒	小倉徳久※	池田　真	大坪香織
	八木弘光	脇田一亮	
学　内	岡村　信§	小山　隆§	中村　健§
	桃沢洋三§	山内　盛§	長谷川 明§
	藤本康雄§	小川尚武§	草間　貞§
	安川　憲§	井口法男§	高畠　亨§
	石毛久美子§	田口博之§	
	大越絵実加§		

常任理事 68名　　理　事 205名

監　事

昭和51年卒	石田制利	
昭和52年卒	井沢郁子	
学　内	徳竹伯夫	

監　事　3名

日本大学薬学部教育研究基金・奨学基金・教育研究施設整備拡充資金

募金協力者名簿

56 相崎元衛・飯田龍男・岡村信・高玲子・小山隆・戸塚淳逸・外山美代子・新村宗敏・原田貞亮・山崎俊子・吉田幹子 57 一ノ瀬衛・大橋百枝子・高仲正・森田允子 58 江口弘・大庭一郎・金子佐知子・黒川雄三・金光継道・徳竹伯夫・徳竹喜子・中村健・前田和徳 59 有本亨・市原正・伊藤爾悠・小倉嘉五郎・桃澤洋三・笹野英雄・角田吉弘・高橋周七・山内盛 60 及川裕香子・小倉操子・香取悦・窪田宏子・上甲時子・鈴木京子・瀬川節子・高崎美枝・長谷川明・林黎子・待井啓子・山口良子 61 石井静子・宇佐美快昭・金西信次・後藤立子・坂本寿子・四条邦雄・西川肇・藤本康雄・前田敏晴・真鍋信子・丸山紀子 62 梅本準治・藤原充雄 63 青木正忠・石橋正子・伊藤進・久保田昂・武井侑代・千葉貴司・根本泰子・三崎弘・山崎純弘・8期生一同 64 小宮宏宣・米本富美代・渡辺和子 65 小川尚武・木村由美子・小林郁夫・坂田達哉・牧村瑞恵・真下京子・宮崎賢二・山田修稔・10期生一同 66 東厚子・稲垣英夫・加納節夫・上村浩子・小林正子・城之内マサ・滝口聡代・服部勝彦 67 小清水敏昌 68 稲垣房子・栗山忠俊・田口実 69 石崎衡治・佐々木泰尚・瀬尾健一・西村友則・細田庸子・山下歌子 70 草間貞・道祖土勝彦 71 伊藤順子・佐々木孝敏・篠崎俊行・原敏富・深田るみ子・山田陽 72 田口久美子 73 青木豊美・岩瀬京子・斎藤好廣・角田真理子・山本美枝子 74 坂本親嗣 75 草間国子・小池勝也・立川真理子・山口やよい・横山宗彦 76 浅井三千子・井口法男・金児朋子・吉川勝 77 伊藤芳久・関山明・高畠亨 78 能塚千寿枝・三宅宗晴・横山亮一 79 横井泉 81 井熊一宏・木下文恵・富樫真奈美・山中健三 82 石毛久美子・栗原孝 83 小林弘子・高山京子 86 加藤孝一 87 亀井美和子 88 永沼恵美子・前田雄一 89 小野耕児 90 武井希衣子・三原京子 91 並木邦仁・成沢靖一郎 92 根本誠子・横山磨里 93 油本光恵

会費納入報告

財務委員会

会費を納入していただきました会員の方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。
誤りがございましたらお知らせ下さい。　（平成5年4月～平成5年10月5日）

会費納入者

平成５年度会費納入者

31 兵藤精一 32 石橋義弘・鈴木康雄・鶴田実 33 佐藤雅子・塚田房・中澤悦子・福田静江・星田郁代 34 梶原静子・鈴木信子・中井義夫・矢野哲比古 35 碓井貞弘・尾崎芳江・高野俊彦・林黎子 36 岩瀬光江・草間義道・小林和子・小林陽三・島村周房 38 大野比奈子・工藤祐江 39 広瀬慶子・向井葵 40 岡本繁雄・岡本順・川神邦江・平井清作 41 松田光弘 43 佐々木真澄 44 岸田邦雄 46 萩原裕子・福田昌子 47 植松益子・奥田由美・片岡孝子・長池弓子・萩原雄吉・吉田真代美 48 柏村豊子・加藤木好雄 49 藤田敬子 50 山崎枝子 51 森田哲生・吉井善一 52 田中求・種井政春 53 上田忠司・三宅宗晴 54 大塚正征・岡崎至正・高橋美江子・鶴田陽子・中野あつ子 55 加藤彰裕・川口英美 56 山仲扶美子・橋本滋子・平間多美代・平間信行・柳河博 57 諸岡章・吉井康子・渡辺正実 58 関明・沢田弘美・町田しのぶ 59 石川達也・梅田実 60 井上洋・町原薫・本橋正美 61 堀田恵美・鷲足ひろみ・渡部靖宏 63 石田亨・河住昭夫・栗原和弘・牧野志津江・牧野好倫　以上　82名

平成5年～6年度会費納入

35 西本行雄 36 小山登志江 41 藤川睦子 42 田代克秀 46 野口幸一 50 三浦孝予 52 奥山靖子 62 塩地聖一 63 松沢茂樹 93 笠原美紀　以上　10名

平成5年～7年度会費納入

49 松永直樹 51 鈴木孝 52 川崎雅博 52 吉筋利夫 93 中村和明・三宅直人　以上　6名

平成5年～9年度会費納入者

31 飯田龍男・笠井能子・加藤嘉久・小沼良子・合木淑子・神保恵美子・戸塚淳逸・藤本澄以・伏田英雄 32 五十嵐尚美・石黒文夫・石黒由美子・高木茂夫・土井順子・中村喜敬・山本八栄 33 大川和子・大庭一郎・恩田正昭・金子佐知子・清木和子・達谷窟庸介・中村健・野村章子・服部美佐子・山本庸子・吉野道子 34 伊藤爾悠・遠藤邦子・遠藤節子・小野寺旭子・国友玲子・羽尾蕗子・吉田久子 35 有澤宗久・上甲時子・杉崎敦子 36 相沢孝子・石井静子・宇佐美快昭・景山洋子・小荷田孟史・坂本寿三・福田敬子・松島章浩 37 石川春恵・伊東由紀子・上谷知子・小西一雄・須賀文代・長谷川順子・町田實・松島ミス子・松山歌子・吉田昌信 38 赤木素子・石橋正子・井上幸子・奥田政亮・尾崎聿子・梶原温子・形浦和子・桐谷利子・小久保智弘・笹栗つくし・里見厳・高島浩子・平川ミヅホ・三崎弘 39 礒部公明・礒部昌子・長田皇紀夫・小林孜孔・小宮宏宣・清水慶子・末吉祥子・竹内節子・星野律子・宮崎光一 40 浦野博・大林裕子・栗原功・杉谷英雄・鈴江日出子・鈴木サク・鈴木幹枝・高橋捷泰・二井内悦子・松岡寿夫・森田洋子・山川貴子・米川幸子 41 安倍千明・伊藤光一・伊藤祐子・岡崎そのえ・折原俊巳・金子節子・国嶋徹・塩崎益朗・塚本昭次郎・山本正和 42 岩村博雄・片桐きよみ・芹沢直明・田矢美代・原正紀・原田隆子・平野孝子・保坂盛夫 43 藍原恭子・菊谷由己夫・田口実・竹村机良・竹村美智子 44 小金井佳世子・瀬尾健一・成家幸治・細田庸子 45 有田三津代・伊藤幸夫・草間貞・高田路子 46 泉広栄・熊谷辰郎・小林正子・中野英明・丸山潤子・渡辺幸枝 47 相田美子・北中進・高木健光・高木百合江・高橋至・千葉真知子・中丸保・根本景子・山下和代 48 青木豊美・大河内恵美子・大河内一紀・高橋泰子・福地幹男・宮田順子・山根典子・山本美枝子 49 青木三秀・上田春子・佐藤恵美子・鈴木雅富 50 浅井敬代・草間国子・笹原紀代美・土井正道・間久雄 51 国徳順子・橋本牧子・村田大作・吉川勝 52 大塚桂子・角南美津子・山口文恵・山田洋 53 奥山弘明・佐野澄江・杉山裕茂・戸野佳彦・吉野達規・渡辺真利子 54 北中友子・君島真知子・佐藤守広・地曳いせ子・砂堀みどり・林真理子・山口尚子 55 石綿仁・岡田真理子・中村洋子・増野浩・御園高弘 56 小野泰子・岸川直子・小森谷友宏・神宮由幸・鈴木玲子・田中良子・知久真巳・本多玲子・松本淳子・松本卓 57 岡野京子・田村悦子・藤井立子・馬島潔郷・湯川仁 58 石原貞美・刑部万里・尾崎美紀・佐々木貞恵・佐藤雅典・菅沼陽子・高山京子・中川幸雄・平河優子・森川明理・山田孝志・山田みゆき 59 阿部秀夫・門井功・岸田朋子・鈴木孝子 60 竹之下敦子・藤森浩行 61 保坂さとみ・五十嵐優子・川島直美・高松智・濱田裕子・古田香苗・三宅智子・村田みどり・渡辺良一 62 伊東椎佳子・大井雄仁・加藤要子・奥水温子・小峰茂・高橋久美・高橋正直・田村泰紀・亀井美和子・橋本一成・村上理子・森啓子 63 阿部振一郎・荒川一郎・石川徹・石川ひろみ・伊藤公則・橋本裕子・大沢孝・大島直美・岡部賢悦・小野塚純久・加藤孝博・菊川由紀子・北村早樹子・木下賢治・小泉明子・後藤賀子・斎藤賢哉・佐藤光・諏訪勝彦・瀬ノ尾啓泰・高梨和男・武永真嗣・田辺昌太郎・遠藤真美・奈須順子・箱守健二・町田伸行・米田圭助 89 川嶋幸広 91 風戸寛子・河内朗・宮下史子 92 池田剛・貞包啓雄 93 秋田玲子・浅野雅貴・油本光恵・有野智子・飯島裕美・飯島正勝・五十嵐愛・池内謙二・伊香愛・井坂忠夫・石黒文子・石原佐織・石和田恭子・板倉正樹・市倉明日香・伊藤久美子・伊藤寿恵・伊藤美和・伊藤由美子・稲田由美・犬飼文枝・猪瀬千加子・猪股英幸・今村毅・色川和夫・岩崎憲吾・植木緑・植田記加・鵜養則弘・臼井和子・内山久代・浦英生・遠藤万寿美・大越絵実加・大島誠・大塚祥子・大塚ゆう子・大部紀代子・岡田直栄・岡本政徳・小笠原康幸・小倉徳久・小澤克哉・小野由起子・嘉齊雅美・笠原靖裕・樫本考司・柏木甲晴・加瀬貴久・加藤隆之・金子祐司・加納智子・鹿岡瑞穂・鎌田晶子・神谷有紀子・加茂下淳子・川合集・川口啓介・川島明子・川田毅・河本忠久・管頭直人・菅野宏一・菊地昭子・木崎幸子・木澤加江・北野晶子・木下百合・木村文雄・木村明以子・草間ゆうこ・工藤エリカ・熊井寧彦・倉品浩美・黒澤敦・黒柳麻紀子・桑田明子・毛塚雪乃・小池かずみ・小磯雄一・荒野晃太郎・小谷典子・小寺清子・小濱田玲子・小林なほ子・小林弘・小谷野奈緒・今英之・近藤ミカ・後藤達也・後藤麻美・齋藤晃子・齋藤理・齋藤昭子・斎藤貴子・齋藤治幸・齋藤将明・齋藤由香里・佐久間利恵・

笹野美帆・薩田忍・佐藤真一・佐藤賀子・佐藤葉子・重松純子・渋谷達子・島田卓子・荒井典子・末安友紀代・菅原眞紀・杉本英哉・杉山真紀・鈴木加世・鈴木敬子・鈴木博・鈴木亨子・鈴木嘉之・砂川優子・関根友恵・染谷勝・高沢美津子・高谷雅人・高田英子・高野綾子・高橋桂子・竹内佐智男・竹下香織・田中清・田中律子・田辺りえ・谷本啓子・近静枝・津晃子・坪内進・戸田真由美・富山知恵・土肥順子・中井美貴・中谷昌博・中野淳子・中村英治・中村香織・中村典子・中村倫子・中村龍一・中山昌彦・長尾美江・長澤寧子・奈良淳子・成田久美・鳴島茂美・成瀬博之・新山秋江・錦織広治・西田裕子・西部美里・西山紀子・西脇いずみ・野俣ミユキ・野村文・野呂和彦・長谷川由美・秦野朋子・初見理子・羽地博・羽田純子・林宏子・原淳和・樋口武・平塚哲・平野晴代・福田定加・福田みゆき・伏見国博・藤原誠人・古門正明・古田珠美・細井洋平・堀越勝之・本間裕子・保淳人・朴宗和・牧千帆・牧野智江子・松井理恵・松木美菜子・松田紀子・松原爽・松原善・松元美香・松谷有里子・三浦清志・三浦木綿子・水澤有里・水村美恵子・溝口明子・宮下淳・森日出子・森雅江・森山有紀子・茂呂郁江・八木美ユリ・矢向文人・山口友道・山口裕康・山本幸代・山本学・湯下伸二・楊孟翰・横山香織・吉岡憲一・吉野さやか・藍佩君・若林聡・渡部英治・和田佳代子　以上　485名

平成5年～14年度会費納入者

37 荒川秀子 43 稲垣房子 48 井上佳江 59 薄元優子　以上　4名

平成7年～11年度会費納入者

93 愛澤昌宏・池田真・大坪香織・小竹宏幸・小林孝至・財津英子・清水竜・菅沼太陽・鈴木克実・田口一実・夛田きよみ・中島淳・中山敏光・三浦康一・三谷一之・八木弘光・横山研治・吉田緑・脇田一亮　以上　19名

入会金納入者

平成2年度入学者

青木克代・新井敏美・安藤恵・池田真紀子・岩澤恭介・石井貴子・井原淑恵・稲田由美・梅宮典子・大橋昌子・大阪卓・河崎恵美子・加藤剛・黒川かをり・斉藤俊明・斉藤伊智代・貞久利彦・杉山栄美・鈴木崇利・高瀬紀子・田口あゆみ・中島羊奈子・野木英子・服部容子・廣川友美・廣田亜紀子・福田守・益本誠二・三宅信栄・三ヶ尻容子・山田宏枝・山田智恵子

平成3年度入学者

鮎澤由美・浅川卓也・池田清子・浦内英里・宇佐見まどか・遠藤敏成・川口浩史・木村奈緒・黒須裕子・齋藤暁・桜井学・檀上敏美・田中宏一・辻岡紀子・野口百合子・原田繁・藤澤明弘・吉川崇志・和久津恵理

平成4年度入学者

明石ゆかり・秋葉三岐子・有野仁子・阿部理英・油谷由美・池本直子・今津智子・伊崎大祐・伊藤玲奈・石川早百合・今木理英子・井上恵里・鵜養知秀・及川政樹・大塚修一・長田香織・小野光子・岡澤均・大塚千穂子・押見真和・岡村春佳・金子海玲・片野時江・加藤朋美・加藤晃子・片山美智子・加藤綾子・川上正人・郭京子・君島靖子・熊谷克之・倉上大祐・後藤淳・佐藤直行・佐々木俊子・清水孝彦・庄田奈苗・清水一葉・島村雅美・末永雄大・為永祐子・宝居邦治・辻村美保・戸上靖子・中道伸夫・永井優・中里裕之・長尾昭子・中村美香・新田敏正・新野かおり・延島道広・長谷川広恵・針ヶ谷泰久・原田洋・花房記子・早川陽子・兵藤邦彦・廣中章代・藤田智子・福本恵美・丸山裕子・松井周一・圓尾謙太・南沢知克・水垣伸一・宮浦康明・水村悦子・村山真美・望月由美・山田雅代・吉倉環・横田麻紀・吉住尚美・渡部多真紀

平成5年度入学者

朝比奈えり・阿部俊史・青山高海・秋本若子・荒木紀恵・荒木聖子・岩井得峰・井上奈津子・石井賀津二・今福景子・磯野雄一・井口一成・五十嵐未樹・岩田幸子・石川正樹・伊藤幸恵・石崎純・一和多秀樹・上原徳子・宇敷美帆子・生形美友希・岡添進・大川公子・小川裕一・大谷裕子・大屋光示・大前暁子・岡村治男・大竹由希江・小俣敦・大内希・河北訓幸・川島麻希・金子大輔・柏原健・加賀睦子・川名孝幸・金森美緒・川俣美智子・川島淳子・北市裕子・木戸克典・木崎大賀・黒川陽子・久保綾香・合田浩子・小林文・後藤有紀子・小林紀子・金光芳江・小池晃代・齋藤茂・櫻田未来・榊希枝・齋藤恵子・佐藤貴洋・齋藤剛志・佐瀬晴彦・定永晶子・柴利佳・鈴木庸扶・須藤直子・杉本忍・鈴木美江子・須田篤博・曽根原美鈴・高尾大・武井由紀子・高野倉一恵・橘磨裕子・高橋秀行・田中秀幸・高橋佐和子・津曲麻美・塚田万紀子・富田明香・中野義久・西玄渡・沼田百恵・根本史子・原淳・針谷聖子・春田由郁・平澤美和子・古川亨・藤原早央理・福山謙太・星めぐみ・本田浩之・穂山孝子・松本崇・松尾英明・箕輪涼子・水野久美子・宮川紀子・水島唯・村田真理子・村上哲哉・村山佳里菜・守谷和恵・森裕美子・山崎幹久・柳沢正和・山崎暢一・薬師寺かおり・山田剛・矢野一成・山田武志・柳直幸・山下誠・山口武浩・吉田あづさ・吉田圭吾・吉越エリ・渡邉真由美・渡部圭　以上　計　242名

会員動向

会員数	（平成5年4月1日現在）名	前年比
正会員	7,705	+252
学生会員	947	−4
特別会員		
薬学部教職員	60	+2
退職教職員	21	1
準会員	0	
合計	8,490	+294

発行日　平成5年10月25日
編集人　日本大学薬学部校友会事業委員会
発行人　日本大学薬学部桜薬会会長 原田貞亮
印刷所　白洋印刷K.K.　TEL 03−3352−5631
発行所　〒274 千葉県船橋市習志野台7−7−1
日本大学薬学部内
電話　0474−65−1478（直通）
振替口座　東京2−50025

表紙写真撮影：中山敏光（M1）